

# 100年の音色を刻む 大田黒公園ピアノ物語

## 区立大田黒公園

音楽評論家の大田黒元雄氏の屋敷跡地に作られた日本庭園式の区立公園である。氏が47年余りの時間を過ごした屋敷跡を杉並区が日本庭園として整備し、昭和56年10月1日に開園。公園にしてほしい、という氏の遺志により、遺族によって杉並区に寄付された土地は2679.63m<sup>2</sup>におよび、できる限り原形保持を図って整備された園内には、樹齢100年を超えるイチヨウ並木をはじめとした巨木がうっそうと茂っている。

数寄屋造りの茶室や、旧書斎であるベンガラ色の記念館、民家の土間を思わせる休憩所といった建物があり、記念館は昭和8年に建築された西洋風建築物で、生前氏が愛用したピアノや蓄音機などが今も残されている。

正門は総檜の切妻づくりで、屋根は椽瓦ぶき、左右に築地塀といった構え。大イチヨウの並木と共に白い御影石を敷いた園路が70メートルほど伸びている。イチヨウの樹齢は70～80年にもなるという。

管理棟は茶室、休憩所、事務室からなり、休憩室の内部には昔の民家をしのばせる大きな松の梁がある。隣が京間8畳の茶室で、内部は秋田杉。面前には、青々とした芝生が広がっている。

茶室・休憩所の裏の中庭に井筒があり、そこから細い流れがあるが、茶室の周りを一周し次第に幅を広げながら、木立の中を流れてこの庭園の中心である池へと注ぐ。池は筑波石と植込みで飾られ、ほとりにはあずまやが建っている。

毎年12月には、紅葉の園内を期間限定でライトアップし、夜8時まで開園。その美しさに、毎年多くの地元の人々が足を運んでいる。

**所在地:**〒167-0051 荻窪3丁目33番12号

JR・丸ノ内線荻窪駅南口から徒歩7分程度

<http://www2.city.suginami.tokyo.jp/map/detail.asp?home=K00740>

## 大田黒元雄プロフィール

1893年東京生まれ、音楽評論家。

学生時代にピアノを学び、19歳の時にロンドン大学に留学。第1次世界大戦を機に帰国し、現在の大田区山王に居を構えて執筆活動始める。

ドビュッシーやストラヴィンスキーを初めて日本に紹介し、同時代の欧米音楽の普及に努めるほか、福原信三らと写真芸術社を結成し写真芸術運動を起こしたり、NHKラジオ「話の泉」の解答者に起用されて茶の間の人気を集めるなど、多彩な才能を持って活躍。紫綬褒章受章、勲三等瑞宝章受勲、文化功労者認定など、芸術分野でのその功績が認められる。

1933年に大田区から杉並区東荻町(現在の荻窪3丁目)に転居し、1979年、86歳で没するまで47年余りに渡ってこの地に住み、芸術活動を続けた。



## 大田黒公園のピアノを守る会

大田黒公園記念館(杉並区荻窪3-33-12)

**問合せ先** 杉並区役所都市整備部みどり公園課

TEL:03-5307-0740

## 大田黒公園のピアノ修復募金活動

[http://blog.goo.ne.jp/ootaguro\\_kouen](http://blog.goo.ne.jp/ootaguro_kouen)